

電子複写不可

昭和三年一月、同年六月

沖繩方面海軍作戰資料

第二復員局

二復史料

防衛研修所戦史室

③  
本土  
43





各三折

敵ハ「マリヤナ」群島及び山ヲ占領シ我カ本土ヲ距ル概テ

一三〇哩ノ戰略線上ニ其地ヲ獲得シ我カ本土ト南洋方面ニ域

強カナニ大

然レモラ 敵ハ

トノ支那ハ概テ断絶シ我カ本土ノ戰力回復係

ノ被播益ニ我カ本土ト朝鮮滿州支那トノ交通線ヲ有初

ニ我カ自威ビガ爲ニハ更ニ一層ノ基地ヲ推進シテ果シテ断絶サレタ

我カ判断トシテハ敵ハ昭和二十年二月頃黃硫島ニ據イテ

四月頃東支那海周辺ノ要津即チ南西諸島(小笠原)又ハ  
中支方面ノ向ヒカニ進攻シ南始スニマツトノ結論アリトシ海軍

地理的戰略的諸條件ノ背景上

例ニ於テハ前者ノ中務南西諸島特ニ沖繩ニ敵カ果攻スル

大本營ニ於テハ  
十九年未だ敵ハ  
次期作戰ニ對シ  
重要決断ヲ行ハズ  
トシテ

公債力が取モ大ナルコト判断セテ居ル

然ルニ當面時ニ在リ我カ戦カヲ以テハ形入リ戦カヲ擁スル敵ノ未攻ニ対シ

我カ戦カヲ擁スル敵ノ未攻ニ対シ

ハ其地理的條件が我カ戦カヲ大規模且有効ニ使用スルニ困難

ガアリ及シ沖繩ハ我カ戦カ投入シテ容易アリ敵ガ之ヲ占領シタ

ニハ破莫高ク比シ敵ノ海軍並ニ航空基地が容易ニ得ニ我カ國內海軍

並ニ海上交通ニ及ボス脅威ハ甚大ナルモガアルコトテ大本官トシテハ日取少限

其第一項作戦計画ニ係リ

其第二項作戦計画ニ係リ

其第三項作戦計画ニ係リ

其第四項作戦計画ニ係リ

其第五項作戦計画ニ係リ

其第六項作戦計画ニ係リ

其第七項作戦計画ニ係リ

其第八項作戦計画ニ係リ

其第九項作戦計画ニ係リ

其第十項作戦計画ニ係リ

其第十一項作戦計画ニ係リ

海軍は戦力  
陸軍は戦力  
航空は戦力  
戦力ヲ沖繩作  
戦ニ投入スル  
スルコトニ決意  
ヲ見テ決意  
シタル

沖繩作戦ニ係リ  
ル大本官ノ企圖

一 一般作戦方針

帝國陸海軍ハ機微ナル世界情勢カノ支軸ニシテ

海軍

主敵米軍ノ進攻破獲ニ指向シ随所從深ニ巨ツテ敵戦力ヲ折  
 破シ戰爭遂行上緊要喫ノ海域ヲ確保シ以テ敵ノ戰意ヲ挫折シ  
 テ戰爭目的ノ達成ヲ図ル

二 一般作戰指導ノ大綱

- (一) 陸海軍ハ戰局愈々至難ニシテ豫期ニ於テ戰能ハ心執カラハ  
 用レ敵ノ進攻ヲ破獲ニ速ニ自主的態勢ヲ確立スル
- 右ノ自主的態勢ハ今後ノ作戰推移ヲ洞察シ速ニ先ヅ自主上攻之ガ  
 防衛ニ必要切テ大陸兩海域ニ於テ不抜ニ戰能執力ヲ整備シ敵ノ未攻  
 ニ當ツテハ隨時之ヲ進軍破入ト共ニ此ノ向狀慢ク許ス限リ反軍戦力  
 特ニ精練ナ航軍戦力ヲ整備シテ積極不兩朝ノ作戰遂行ニ努ムル  
 シ其ノ主眼トスル
- (二) 陸海軍ハ比島方面ニ未攻中ノ米軍主力ニ對シテ不韌強ク作戰ヲ遂行シ  
 之ヲ壓破シテ極力敵ノ戦力ニ打撃ヲ加ヘテ、敵戦力ノ未軍制ニ努ムル

此ノ向●速カニ爾他方面ニ於テ作戰準備ヲ促進スル

(三) 陸海軍ハ主敵米軍ノ皇土西地域方面ニ向テ進攻特ニ其ノ優勢ヲ空海  
兩戰カニ對シ作戰準備ヲ完成シテ之ヲ突破スル

之ヲ爲ニ北島方面ヨリ皇土南域ニ未攻スル敵ニ對シテハ東支那海周  
辺ニ在ル作戰ヲ主眼トシニ三月頃ヨリ前途トテ周回西地域ノ作戰  
準備ヲ速急ニ強化スル

敵カ小笠原諸島(硫黄島ヲ含む)ニ未攻スル場合ニ對シ極力之ガ  
防備強化ニ努メ又敵カ一部ガ十島方面ニ未攻スル場合ヲモ豫期シ  
又状況ニ依リ有力ノ敵ガ直接本土ニ未攻スルコトヲモ観望シテ之  
ニ對スル準備ヲ速急ニ整ヘル

(四) 陸海軍ハ進攻ニ米軍主力ニ對シ陸海特ニ航空戰カヲ綜合シ又強ク敵  
戰カヲ突破シ其ノ進攻企图ヲ破壊スル此向他方面ニ於テハ優勢戰力ヲ  
敵ノ空海戰力ノ未攻ヲ豫期シ主トシテ陸上部隊ヲ以テ作戰ヲ遂行スル

敵戦力産破ハ渡洋進攻ノ弱点ヲ捕ヘ洋上ニ於テ痛撃ヲ與スルヲ  
 主眼トシテ後上陸スル敵ニ對シテハ補給途斷ト相俟フテ陸上作戰ニ於テ  
 其ノ目的ヲ達成スル

(五) 尚敵機動部隊ニ對シテハ切斷ニ由リ捕提シ之ヲ求メテ漸滅スル  
 東南支那沿岸ノ要地ノ戰傷ヲ強化シ南西諸島及台灣ノ相俟フテ  
 東支那海周圍ニ於テ尤飛空戰力ノ發揮ニ遺憾ナク期スルト共ニ

作戰時

敵が支那日本土進攻ニ先夕々若クハ之ニ併行シ有力ナ一部ノ大陸進攻アル  
 コトヲ予期シ上海及広東方面ノ作戰準備ヲ促進強化スル

(六) 南方方面ニ於テハ自衛自衛戰態執リソ確立シ敵ノ攻襲及空軍基地奪回  
 企圖ヲ破挫スルヲ主眼トスル

(七) 陸海軍ハ愈々織烈化スル敵ノ空襲ニ對シテ其ノ根柢ヲ切斷シ  
 之が制空ヲ圍ル外主として支那日本土ニ於テ發生主生及支通ヲ防衛

ニテ治安ヲ維持スルニ被テ島ヲミル

近クハ陸軍部隊島方面ニ敵軍駐基地が進出スルニテアルヲ豫期シ之  
が利用妨害ノ対策ヲ準備スルニ特ニ帝都ノ防空準備ヲ速ニ強化  
促進スル

(八) 陸海軍ハ敵ノ妨害ヲ排除シテ、極力南方ヨリ本土ニ対シ燃料資糧ヲ  
運送スルト共ニ日滿支向ノ海上交通ヲ確保スル又敵ノ長大ナ作戦  
線ニ対シテハ不斷ニ之ガ擾乱ヲ自感シ行ヒ敵ノ補給ヲ妨害スル

(九) 兵隊ノ訓練的ニ増強駐屯スルニテハ當ルニテ共ニ戰法編制  
兵器ノ創意心ニ努メ特ニ奇襲智謀ヲ作戦上ノ要事トシ金  
増加スル後我ノ相對戦力ノ隔絶ニ対処スル

三 皇土要域(南西諸島ヨリ含ム)ニ於テ作戦指導官西女領  
(一) 敵ノ空襲ニ対シテハ留ルニテ共、敵軍基地及敵機動部隊ヲ制シ又本土  
紀要部ノ防空対策ヲ強化シテ不斷ニ敵機ノ襲撃ヲ圖ル



積私防空ハ敵カヲ主体トシ特ニ之ガ爲所重シ航空基地ヲ堅守シ且之  
ガ社區掩護又ニ遺糧ヲキリ明ス

(二) 本土中域ニ於テハ宜海ヨリス敵ノ海陸交通破壊ニ對シ交通幹線  
港灣ノ防衛ヲ強化スル

(三) 本土防衛ノ爲ノ縱深作戦遂行上ノ前線ハ南千島、小笠原  
諸島(破萬島ヲ含ム)沖繩本島以北、南西諸島、台灣ノ及  
上海附近トシ之ヲ確保ス

右前線地帯ノ一部ニ於テ狀况眞ニ止ムヲ得ズ敵ノ上陸ヲ見ル  
場合ニ於テモ極力敵ノ出血消耗ヲ圖リ且敵航空母艦(母艦)等  
取リ付ケル

(四) 本土、南韓及上海附近ニ對スル敵ノ反攻ニ陸ニ防シテハ陸海  
空戰カヲ綜合發揮シテ之ヲ排除削減スル又千島、小笠原  
南西諸島及台灣ニ於テハ敵ノ進取ニ先チ予備隊ヲ配置ス

戦力ヲ投入シテ作再準備ヲ整へルト云ニ核ヲ失ヒテ所無セノ般宜我力ヲ集中増加シテ之ヲ軍被ス

(五) 皇土特ニ本土及朝鮮ノ作再準備ハ萬難ヲ排シ速急且根本的刷新強化ニ當リキル所期スル敵ノ熾烈ナ意欲ニ即応スル戰場態勢ヲ整へテ、核ヲ本旨初秋迄ニ之ヲ樹成ス敵ノ上陸企圖ニ對シテ作再準備ハ情勢ノ推移ニ即応セシメ且七肉果地方、九州及朝鮮方面ニ於テ先ヅ速ニ之ヲ定規ス

四、航空作戦指導要領

(一) 陸海軍航空戦力ノ綜合發揮ニ依リ東支那海周ニ地域ニ果攻ヲ豫想スル敵ノ軍威ニ対シテ本土接防衛ヲ執力ヲ強化スル右作戦方針ノ爲メ特ニ兵力、艦艇、航空機之ヲ活用シ重視スル  
(二) 東支那海周ニ地域ニ對シテ西諸島果テ支那九州朝鮮



(六) 日滿西支地、防衛ヲ強化シ且之ニ東攻スル敵艦空兵力ヲ其地

制シテ防衛俟スル

(七) 情報カ、多量ニ對スルニ爲カテ豫備兵力ヲ常ニ握ル運送  
ニ之ガ便宜ノ向上ヲ圖ル

(八) 陸海兩軍ハ念々之ヲ改精進ヲ旨トシ揚シ其兵力ヲ可及ニ  
増強シ且其戦力ヲ十全ニ發揮シ得ル如ク爾他兵力ノ  
養成ニ力ヲ入ル

(九) 本土及東支那海周辺地域ニ在ル敵艦空作戦ニ於テハ  
陸海軍協合作戦ヲ本則トシ本土方面ニ在リ  
協合作戦ニ敵艦空作戦最モ重要ヲ認メ協働官ハ協働ノ實  
ヲ得得ニ之ガ爲メ作戦場ニ在リ且之ニ付随スルハ本  
則トスル

(十) 全般敵艦空兵力ノ運用計画ハ別表第一及第二ニ依ル

別表第一

陸軍航空兵力運用計畫腹案

		本		王		子		面	
		A		F		6			
要地防空	時機部隊								
Λ	400	Λ	60						
ニ	45	②	30						
		②	10						
		②	10						
		②	100						
		②	25						
		②	300						
		Λ	90						
		Δ	80						
		●	10						
		●	20						
		●	25						
		②	300						

南西諸島

海軍

支那	支那	支那	支那
A	F	A	F
75	30	1	1
20	70	0	Δ
30	16	Δ	②
50	150	②	

台	台
D	F
120	1
40	Δ
10	②
250	②

南	南
海	海
25	3
15	FA
●	1

註一、本計畫、兵力は三月末目途整備ノモノヲ示シ

今後ノ情勢ノ推移ニ依リ変更スルコトアリ

ニ、本計畫ハ主トシテ南西諸島及台湾周辺ニ於

テ作戦ノ場合、兵力運用ヲ示ス

三、符號ハ左ノ代種込合ヲ示ス

Λ 战斗机

● 爆撃機

Δ 艦載機

ニ 司令官

○ 指揮機

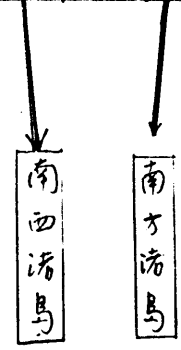
② 特攻(一隊以上)トシテ算定

終

別表第二

海軍航空兵力運用計畫腹案

(10AF)	5AF		3AF	
	戦闘機 700 練習機 1300	f <sup>c</sup> x200 f <sup>b</sup> x60 f <sup>o</sup> x30 f <sup>l</sup> x90 計 2000	f <sup>s</sup> x10 f <sup>d</sup> x5 f <sup>sr</sup> x5 f <sup>l</sup> x90 f <sup>o</sup> x30 f <sup>l</sup> x90	f <sup>c</sup> x300 f <sup>b</sup> x80 f <sup>o</sup> x50 f <sup>l</sup> x30 f <sup>l</sup> x30 f <sup>r</sup> x20
		計 520	計 510	計 90



海台	
1AF	
f <sup>c</sup> x40	f <sup>r</sup> x5
f <sup>b</sup> x10	f <sup>o</sup> x5
f <sup>o</sup> x10	f <sup>s</sup> x5
f <sup>l</sup> x5	
f <sup>l</sup> x5	計 85

本土防空兵力	東部	60
	中部	50
	西部	50
	本州	150
	那海支	150
護衛兵力	南西	50

面方西南	
13AF	
f <sup>c</sup> x50	
f <sup>o</sup> x15	
f <sup>l</sup> x15	
計 80	

海軍

(註) 10AFハ作戦予備兵力トシテ四月末ヲ目途トシ  
特攻訓練ヲ概成ス

終

菊水六號作戰 (5月10日21時)

制空	fc	65		
攻撃機	fc	28	} 46機	
(28機中4機)	fb	18		
艦隊	flb	6		
	fr	6		
(24機)	f0	15	} 特殊	
(1機)	f1	2		
	f2	4	} 特殊	
	f3	1		
	f4	8	} 特殊	
	f5			
		52機		
偵察機	fla	9	} 32機	
	f1b	6		
(2機)	f1c	10		
	f1d	2		
	f1e	5		
偵察索敵具也	fla	8	} 13機	
	fr	5		
計		208機		





菊水ノ八號作戰 (5-27 ~ 5-28) (5-27 ~ 5-28) (三ノ日)

別空	fmc 6 fc 85	91	回	fmc 16 fll 6	22
攻撃 種別	fll 6 fll 11 f0 4 fll 4 fll 7 fmc 14 fll 3 f0 4 fsl 15 fll 31	99	偵察 索敵 其他	fll 3 fd 1 fsl 2 fr 3	9
(初陣機師 迄 船艦等)					
			計	22 / 機	

菊水丸號作戰 (6-3-6-7)

制空

f<sup>c</sup> 64

攻擊 艦船

f<sup>ll</sup> 12

f<sup>ll</sup> 15

f<sup>sb</sup> 8

f<sup>o</sup> 4

f<sup>mc</sup> 6

f<sup>b</sup> 6

f<sup>lo</sup> 4  
f<sup>mc</sup> 5

(飛行場)

51

特效

9

偵察. 哨戒. 索敵. 其他

f<sup>r</sup> 17

f<sup>c</sup> 3

f<sup>sb</sup> 2

f<sup>sr</sup> 6

f<sup>mc</sup> 13

f<sup>lo</sup> 11

f<sup>dc</sup> 1

53

計 177 機

菊水十號作戰

(本月三十一日迄三十一日)  
~~(本月三十一日迄三十一日)~~

制空 116

哨戒、索敵偵察其他

攻撃艦 4

fr 5 } 7

f重 13

fsr 2 } 7

f〇 5

(包括哨戒艦)

fsb 16

71

f掃 11 特攻

fsr 8 特攻

f〇 6 特攻

f掃 8 特攻

flo 11 } 30

fnc 19 } 30

(飛行場)

計 224 機

第三項

未詳 冲艦方面作戰使用兵力之整備

比島沖海戦ノ結果トシテ我々艦隊ノ骨幹部隊ハ壊滅シ残存  
兵力ヲ以テシテハ大規模ノ計畫的作戰ノ實施ハ不可能ナリ

海上

アツタ徑ッテ昭和二十年度初頭ノ情報カニ於テハ國土外廓  
地帯ニ進攻スル敵ニ對シテハ航空兵力が主体ナリ

第ニテ是局地防衛陸戦兵力及軍需物資局地海上兵力カ  
副次的役割ヲ演ズルコト、ナラザルヲ得ナクツタ

即チ敵ガ進攻ノ場合同地兵力ヲ以テ、或ハ期間同善戰シ  
好戦ヲ促シテ有カシムル航空兵力ヲ投入シテ戰執ヲ期ス

我々

転換ツ図ルシ主眼トシ敵軍攻、初期ニ於テ航空之掩護、  
下ニ大規模ノ海上決戦ヲ行フ等ハ到底考ヘ得ザル

ニトテアツク依ツテ帝國大本營ハ國土外廓要域ニ  
進攻スル敵軍ヲ対シテハ航空兵力、整備ヲ第一ト

セザルヲ傳オヨブニシ

一海軍航空部隊ノ编制機訓練

昭和二十年、初頭、海軍日本の上層ニ於ケル航空作

戦主担任部隊ハ第三航空艦隊ヲアリ其兵力ハ関東  
ヨリ九州ニ亘ル本土及南方諸島及南洋諸島ニ迄展

南にテ居つた右外九州方面に聯合艦隊附屬の第一航空隊が対敵初陣の兵力を九州方面に所在とす

比島方面に於て激戦の結果第一航空隊の兵力は大部消耗し一月下旬第二航空隊が解散

され其残存兵力は第一航空隊に統合せしめられ第五航空隊に編入

前述の如く第三航空隊は陸軍に本工合戦に亘り自ら兵力を展開し作戦上の應用に充てられた

方面に於ては島嶼及び南洋諸島に西方面より進出

ロウ作戦準備ニ不具合ナル一方其兵力内容ハ  
比島方面作戦ニ於テ消耗甚シク飛行隊ハ内地般

機後ノ南洋諸島中ノ之ノ大部分ヲ占メ艦隊司令  
部ノ位置ハ木更津ニ在ル等全般作戦指導上ニ不具合

ノ点ツカサカワタノヲ以テ第一航空艦隊ヲ新設シ第三航空艦隊  
ハ主トシテ関東方面所在ノ麾下兵力ヲ以テ南方諸島及本州東

部方面ニ東攻スル敵ニ備ヘ第三航空艦隊ニ移スル其力ニ十五航  
空戦隊及野合艦隊ニ適応スル其力ニ第一航空戦隊

概率九州方面ニ展開ニ其力ニ一般航空隊ヲ以テ其力ヲ加ヘ

二月五日

テ東ニ第五航空艦隊ヲ新設シ主トシテ東又那海ヲ南ヲ  
滯留スルニ事取ルニ此ニ對シテ西艦隊ヲ東ニシテト

兵カハ

ナリテ在改備ニ依リテ三月上旬迄概テ第五航空艦隊  
ヨリテ第五航空艦隊ヲ保力成中ニシテ合ハセヨハル

校トシテニ遠スニ見込ニテケリ

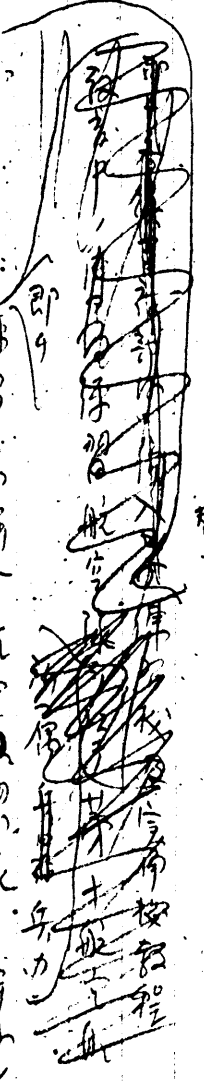
(10) 第五航空艦隊ノ編制

第五航空艦隊ノ編制ニ依リ本土ニ於ケル航空作戦配第

ハ一者表層シテ予想ノ果敢航空兵力ニ対シテトキハ  
我ハ留置艦隊共ニ力取リテ我ニ保力  
デパンテ



全般官校ヲ有効ニ對力化スルノ件西武ヲ以テ之ニ俾留候  
官隊ヲ作兵部隊ニ向テテ行クニト、トシテ



且其係官校及官用兵隊能教育中ノ條官般官校  
ヲ上テ十二才十三種各般官校ニ取籍メ此三箇聯合般官校  
新舊兵隊ヲ以テ才十般官校ニ航以テ新設シ一時停  
能能ノ中止ニ作改改改ヲ完絶ニ五月七廿

事情然テ本ニ同古ノ條力能新任候ニ但候

決定

中野航空隊の航空機

之ニ係リテハ航空機ノ兵力ハ各機一機ノ航空機一機ノ航空機  
係リテハ二五〇機計ニ三六〇機トツテハ概四月

本機不意中敵機ニ一機ノ航空機一機ノ航空機  
我ニ志有ニ得ル見込ニテハ

之等作我ノ航空機ニハ何レモ致ルハ軍用ノ兵器

之機ノ航空機ニテハ航空機ニテハ

亦係リテ航空機個個隊艦下ノ飛行ニテ係リテ航空機

係リテ航空機係リテ航空機係リテ航空機係リテ航空機  
隊ハ之ヲ所存ニ志有ニテ航空機係リテ航空機

各船領守村警備。備有印隊。備有  
自担地内ノ航空基地任務ヲ專ラ担任セラルトモ  
ニ事ヲ快我ニ備ハ陸我兵力トシテ、以テ空軍  
斯クシテ我カ航空機ヲ多ク養成スルハ、一  
カ五月頃ノ務執カ、名ニ固有ノ航空機ヲ、  
セラレテ居ルヲ

(八) 第一航空艦隊ノ台場ヲ要道  
在比島 第一及第二航空隊改兵力ノ敵ノ台場ヲ  
此ノ我カ航空機ヲ多ク養成スルハ、一  
カ五月頃ノ務執カ、名ニ固有ノ航空機ヲ、  
セラレテ居ルヲ

此ノ我カ航空機ヲ多ク養成スルハ、一  
カ五月頃ノ務執カ、名ニ固有ノ航空機ヲ、  
セラレテ居ルヲ

一月七日附牙二航空航隊ヲ解散シテ一般空航隊ヲ令テ  
 ハ合才應所在航空兵力ヲ率ヒ台島ニ駐屯スル  
 右ノ空隊ニ者ルテハ一月九日 元一般空航隊  
 是令中ハ台島ニ移動兵力兩建ニ定メシム  
 右對牙一般空航隊ヲ下空軍兵力ハ九五枚(内特攻機  
 七〇枚)ヲアツテ一月中ニ第一一般空航隊ニ増強スル  
 レタル兵力ハ各種合計約一〇〇枚ヲアツタ(所屬)  
 右第一一般空航隊ハ台島ニ駐屯スル旧機隊航空隊  
 右隊員を以テテ特攻機隊ヲ偏制シテ其兵力  
 増加ノ圖シタ

(一) 牙三三四海軍航空隊

牙一及牙二航空隊所属航空機は地上より起飛し

ハ不可能ナリトシテハ情状カアツクバテ之等航空機

地上作戦部隊トシ

ハ才二五航空隊防衛隊又ハ台修隊進兵力ニ対シテハ二月五

日附身ニ才一三二海軍航空隊 才一三三海軍航空隊

航空隊

才二〇五海軍航空隊 才七十五海軍航空隊ヲ編成シ台修隊進

兵力ヲ收容第一航空隊ニ属スルメニシ

(二) 陸軍航空兵々ハ海軍指揮下編入

陸海軍航空兵々ハ他軍 本戦軍中 且取初ニ陸軍

航空兵力ヲ海軍ノ指揮下ニ入レタノハ昭和十九年七月

二十五日ハ航空隊第九十九航空隊及飛行第七航空隊ヲ才三航

空軍司令官長官ノ指揮下ニ入リ 艦隊ヲ海上作戰ノ訓練ヲ  
 行フモ 陸軍ノ後海軍航空隊ニ任ジテ 陸軍要衝隊トシテ  
 優等ヲ成果ヲ得ルモ 始メリ 陸軍要衝隊ノ小部隊ノ  
 局地兵カラ海軍ノ指揮下ニ入リテ コトガアツク 大部隊  
 又海軍ノ指揮下ニ入リテ ハナハナカフタ 昭和二十一年初頭迄  
 南洋南洋諸島方面ヲ攻ムルニ見ラレシムルヤ  
 艦隊ノ航空兵カ 陸軍ニ屬シ 陸海軍航空隊ノ  
 的ニ使ヘスベトノ意見ガアツク 大才者トシテ 航空隊  
 又航空隊軍(兵力倍々) 航空隊ノ聯合ニシテ 航空隊又令



長官ノ指揮下ニ入ルニトシテ申出テ三月十九日以降五月二十日迄聯合艦隊兵力ノ一部トシテ海軍部隊ト密接ニ協

合ヲ保持シテ沖繩方面艦隊ノ重要任務ニ於テ重大ナル役割ヲ果シタ

(木) 航空兵力ノ研力構成

三月一日現在

南西諸島方面航空隊ニ使用シ得ル海軍航空兵力ハ

第一航空隊 航空機 100機 (本土 西軍部ニ展開)

第三航空隊 航空機 100機 (本土 東軍部ニ展開)

第十航空隊 航空機 400機 (本土 東部ニ展開)

第一航空隊 航空機 300機 (本土 西軍部ニ展開)

計概テ 2,000機 以上

吾れ共ほ成未備之兵カテ擁ニ封ニテ一般之兵カ  
 ノ路ニト大身部一テニ般之兵カテ封ニテ大軍以上  
 勝成途上ニ在リテ其未備ノ兵カテ封ニテ之等  
 兵カテ封ニテ其未備ノ兵カテ封ニテ之等  
 カテ封ニテ其未備ノ兵カテ封ニテ之等  
 成ニテ其未備ノ兵カテ封ニテ之等  
 カテ封ニテ其未備ノ兵カテ封ニテ之等  
 ハラシクテ大軍カテ封ニテ其未備ノ兵カテ封ニテ之等  
 スレテ其未備ノ兵カテ封ニテ之等



神沖庵(一) 神 本業一線対ニ敵を仰々無執カガ考慮

サレバアツクガ亦討ヒニチ一版之概海ノ全向的討取

我はク採用シラノアツクガ五才十版之概海ノ全向

は向戦ニまつリ木林管ノ幕の制ト一沖提我ノ属

重要作ニ鐵ヲ持取我はシ童視ニ其意固ナルニト

(大本意ハ)

シ内示シマシテ差ニ礼ヲ在本上版之部ゆエ方一版之

概海ノ例ニ倣ヒ在初的ニ討取我はク採用スニト

(整平社は者ニ對シラハ)

トナリ其ノ初歩方針モ手取書也同島カニシテ意初

ク収束ヲ為沙野ニ採用スニト一ナリ

(海軍)

航空部は主兵力を以て航空機に依り我々の領土に侵入し、  
先づ我々の作戦方針を決定せしむ

「先づ我々の作戦方針を決定せしむ」

敵我部隊の捕獲能率を極大にし、初歩明瞭

爆撃機の特攻隊を以て、特攻隊を及ぼす航空機に依り、

敵の領土に侵入し、先づ我々の領土に侵入し、  
及ぼす航空機に依り、特攻隊を及ぼす航空機に依り、

敵の領土に侵入し、先づ我々の領土に侵入し、

右方針に基き兵力配備を適宜防衛線等に計

画ヲ策定シ之ニ応ズル諸沙場ヲ實施シテ

(ハ) 敵根拠地偵察運用兵力配備

敵ハ我カ本土進軍用前進根拠地トシテ「カム」「ウルシー」「ライ

等ヲ使用シテ「アム」ト判断セシメテ特ニ敵機動部隊ハ「ウル

シ」ヲ使用シ「アム」ト判断セシメテ  
之等根拠地ヲ遠征偵察シテ敵情ヲ明カニシテ「カム」「ウルシー」ハ  
進軍少隊ニ於テ特ニ重要ナ事柄ヲカケル

「ウルシー」ニ於テ偵察ハ花台島ヲ第一航空艦隊偵察隊トシテ  
「カム」「ウルシー」ナドが「ウルシー」ガム」ニ於テハ(特ニ硫黄島  
大泊台)「ウルシー」ヲ基地トシテ偵察隊ニ依リ偵察ヲ受



船の修費がアツク 之が爲船打 年 月 日 元三船之  
 船物、新雲、秋ヲ疎黄ハ島 古島島島各由水トナ  
 ンタニ新運ニ午後船屋ニ之が補充ヲ行ヒ(疎黄島  
 大陽台ハ潜水艇船運ヲ行フ)今島新瓦新雲ニ乃  
 王田我、破像ハ船カタ之等新雲使赤秋隊ハ高  
 付ノカニツラニシ、使赤ヲ空船ニ履キ直西世ナ  
 報告ヲ齎ラシ今午後我ニ波ニ沖カアツク  
 全領守新雲ハ四ノ二十年五月十日海軍總司令部  
 長官ヲ奉天詞ニ奉メテ  
 (小澤)



三、局地特攻水上水中兵力、整備状況  
後述

海

軍

30

四 地上兵力の整備状況

南西諸島の三三陸隊の新要所ノ戦力ヲ投入シ防備ヲ強化セラル  
ニ作戦部隊ヲ移正スルト共ニ夜ヲ失セズ航空戦力ヲ

自衛中隊等ノ敵果敢部隊ヲ要所ニ配置ス

陸軍ハ北緯南西諸島方面ニ予三十三年(三箇師団)

及渡以(首領社団)ヲ配備シテ居ラマカ比島作戦前

期ト共ニ一ヲ師団ヲ抽出シテ台湾ニ移動シタ之ヲ神

克ニ固シテハ海軍側ノ要所ヲ要求ヲ行ヒ沖原強化  
ヲ主張シタガ陸軍側ト共ニ一隊セズ結局一箇師団

シムは博多ノ沖隈ニ行方スニトニ決シテガ送ニ付被ラ失シ輸送  
不可能トナシタ

古田松島方初ニ所在ニ海軍部ハ沖隈根拠地取  
古田松島航空機ヲシテ沖隈東島沙在兵力

ハ沖隈根拠地取路七ヶ名(設首松島昔々和ノ菊ノ葉  
名)古田松島航空機取路は名名改工員等ヲ加ヘテ

第一萬名取アツタ

陸軍沖隈東島ノ防備ハ古田水陸區域ヲ制シ北中

西飛舟船用也ニハ陸軍ノ陣地ヲ構築年々反意ヲ





29  
 A  
 Ac  
 2  
 T  
 500  
 250

大星・特攻隊ヲ使用スル敵空戦ノ様相ニ関シテハ從來  
 其例ガナク陸上ヲ沖保方ニ作戦ニ於テハ戦果ヲ  
 秘シテモ困難ナルモカマツタ 勿論比島戦ニ於テ  
 是例ハアツタが大木言ニ於テハ 現地ヨリ 報告通ノ戦  
 果ヲ得ルモノトハ期待シ得ナカッタ 因ッテ相当地内輪  
 ニ見渡ツタ或相想定ノ下ニ米軍未攻戦カト我カ航  
 空戦力トシ比較検討スルト概テ別表ノ通デアリテ  
 我カ航空戦力ハ傳成ガ進々ニ陸ヒ急速ニ向上スル  
 東海軍格 乗員ニ対スル  
 情勢カニアツタ 即チ此見地ヨリスレバ敵ノ沖保方ニ

海軍

来以竹餅ハ出果得ルハ五月末以降トナレトガ望ミコシカフヲ  
教ノ末改時教ヲ一遷延ヲ作ガヌル年般ハ事前ニ札

テ教隊動部隊ニ致命的ト大痛撃ヲ加フル以外ニ  
方格ガ「カワヲ」之即チ米機動部隊根拠地ノ奇襲

カ研考ニシテ即チ「カワヲ」

二「カワヲ」在泊中ノ米機動部隊ニ対スル空襲

第五航空艦隊派成直近 即チ一月中旬聯合艦隊ハ「カワヲ」

所在敵機初部隊ニ対シテ我カ本土甚地ヨリ前進スル長距離空  
襲ハ「カワヲ」計画シテ 即チ敵機初部隊ノ「カワヲ」出動

八月想外早う二月十六日園東地にて行也候イテ  
硫黄島進攻作戦を開始ニ至リテ此ノ第五般空

船中兵力ハ硫黄島作戦ニ参り候セリ其ノ第一隊ハ  
二般ノ隊ノ次進出シテ我ニ備へんと共ニソレニシテ

我ニ對シテ(第一隊作戦ト呼稱ス)ノ研究準備ノ定  
規ニテ敵機初動部ハ対シテ凡ソニ情報ヲ取集メ果

初動ヲ監視シテ居リテ三月七日迄ノ通信情報ニ依リテ  
ソレニシテ敵機ニ對シテ大ナリニテ新動ニシテ

第一隊作戦ノ準備ハ二月十七日着陸機ヲ主軸  
トシテ

コシワ、アツタガ 既ニ世帯シ定規ノ好教ヲ規ヒアリシ所 三月七  
日以後ノ通信情報ニ加フルニ 三月九日トラスシテ寄せし

舟田航外所屬ノ新雲ノ復業ニテ 敵機初部海ノつたニ  
在船ヲ確認シタノテ 三月十日決行ニ決シタ

予ニ坂丹作時、定規計画、大母ハ坂ノ標十毛分アツタ

(六) 大型飛行機一機 〇三〇〇 鹿児島島博野進任田岬ヨリ

神島島向ノ内ニ山ヲ通シテ航路ニ、又復業ヲ行フ

(七) 中野陸上校員校四校 〇四三〇 鹿屋野也航路

前路警戒ヲ行フ

(三) 大型飛行艇四枚 (第一隊導隊二枚、第二隊導隊二枚) 〇七〇〇  
盤見島島形銀河隊ヲ辨別中待テ至ラヌ

(四) 銀行ニ高枚〇八〇〇 獲屋又ハ〇八二〇位の岸上陸ニ於テ

海軍校ニ合同「ワル」ニ追逐ニ在リ船中少攻更ヲ行フ  
隊

兵装八〇〇 砲塔一門

右計画ニ基キ十月〇八〇攻隊又ハ進テ南端セリ直后  
何カ四枚ヲ昨日夜他艦「ワル」偵察隊ヲ判別シ

報告電報〇三人カ到着シテ本電ニ依リバ正現空母  
一母又在泊セルニテ他ノ空母ノ存在ニ関シハ不明ナリ

本隊の南東に在リテ三隻はニ列シテ在リテハ其勢ト之ヲラシテ

42  
45  
130  
160  
180

全泊地ノ空母在泊狀况ヲ確認ノ上攻馬ヲ實施スルノ要アリ  
トシテ本リノ實施地ヲ中セシムル事及テ亦余ノ飛行機ニ

敵艦ヲ命ジテ

某機ヲ四航隊ヨリ未着電到着字ヲ判決報告

中ナルト別冊改馬機行ハルリ邊延シ許サカハ

ヲ以テ天候ノ關係ニアリテ自快行ノコトナラズ  
ある日ノ天候係者飛機報告ニ依リ追風ノタメ  
空速大トナリテハルニシテ動着機到テ予言ノ如クナラ  
シキ事出ササカハ各一付子宛陸軍ハコトナラ

各飛行機隊

15  
500

三月十日 予定に陸に弟三波舟作我々兩興シタ 元假使赤坂及  
飛舟 旗号等校ノ起動ノ具合ノ旨及舟泊時刻等後シ

又が好意以テ予宣ニシテ九〇位田岬上空ニ礼ヲ請フ  
我々合同由思ヒタ

途中大陰被テ之好シクアツタガ沖島島山附近に於テハ  
新々「スニール」ガアツテ雲上飛舟ヲ行

予宣時ヨリニ宣ツラニ「ワルニール」及「見ス」トカ  
有ルハ「ハニ」海手飛舟航外分航向東方ヨリ〇度ニ  
ナリシ  
銀河隊指揮官校ハ其校ノ  
「ヤンゴ」島ヲ飛見シ直ニ「ワルニール」方向ニ向フタ





（シタカカ）

船船之命申ヤト不明ナリ

格降ナリ我ハ安メ智也ニ夜暗ナリ且船船ノ灯火

消滅ナリ目撃ノ捕提カ出来ズ爆彈ヲ投

棄シテツヤフコニ不射着シ己ニ不射着セルニ我ノ格降

員ヲ救喜ニテ南百一五〇度迄ニ級着シタ

乗員十名トテラフ所在ヲ聖徳寺ニ移シテ

安ニ休メ在留定母ニ異状ナキヲ確信ナリ本は是

成乃ニテカサトガ破浪サレタ

本は是れ也

海軍

道徳道徳ノ天假

公徳道徳

罪~~徳~~ 道徳ノ予去~~る~~元~~来~~ 罪~~悪~~ 悪~~く~~ 不~~可~~ 救~~済~~ ノ言~~語~~

か出~~た~~カ~~ラ~~タ~~ク~~タ~~ラ~~日~~は~~何~~レ~~カ~~レ~~シ~~ニ~~新~~き~~名~~ニ~~タ~~ラ~~シ~~テ~~等~~ノ~~

ニア~~ラ~~タ~~リ~~

斯~~ク~~テ~~モ~~大~~ノ~~罪~~行~~ヲ~~掛~~ケ~~テ~~予~~ニ~~故~~母~~ 罪~~行~~ 我~~ハ~~失~~敗~~ニ

終~~リ~~故~~ノ~~道~~徳~~ 道~~徳~~ 新~~規~~ 規~~ル~~ニ~~テ~~カ~~ハ~~不~~可~~能~~ト~~ナ~~リ~~

予~~ハ~~故~~ノ~~道~~徳~~ 我~~ニ~~是~~大~~ノ~~罪~~ 行~~者~~ヲ~~齊~~ス~~ニ~~至~~ラ~~ス~~ル~~

海

軍

95

第四項 沖繩方面作戰開始前迄ニ於テ先敵機動部隊ニ對スル作戰

一 三月上旬ニ於ケル敵情判斷

三月十日多大ノ期待ヲ以テ決行セリトモ其ノ後ニ於テ再作戰ハ失敗シ

敵ノ我カ本土周辺地域ニ侵入ノ進攻ヲ阻滯延延セシメテ

（セント）

因ハ完全ニ失敗ニ歸シタ

通信情報其他ヨリ綜合判斷スルニ敵機動部隊ハ十四日

境「ウルシー」ヨリ出陣セルト略々確信ヲアツテ

瓊九州方面ニ集スル旨ヲ大ナリト判斷セリトシ

此ノ機動部隊ノ動キニ因シテハ大本營ニ於テハ敵ハ沖繩方面

上陸作戰ヲ開始スル公算アリ



術カニ向ニシテ大ナ影射者ヲ本邦カガマツ

依リテ大本營ニ社ニハ今般校部隊ガ攻略部隊ヲ伴フ

（主はシ）

コト明カナラザル限リ我々般言兵力ニ使用セシメテ

ルニトシテ方針ガよメテシテ其レハ聯合軍ニシテ

任セラマシ

聯合軍ニシテ三月十七日ハ三月廿五日般言航隊司令

部ニ對シテ般校部隊ガ攻略部隊ニ伴フ協同ハ攻略

言ハシメテ然ラザル場合ハ兵力ヲ過剰ニシテ作戦

ニハシテ「指令」シタ 宣張同部ニシテ本軍司令ハ

海軍

118

宣行上大ニ困難ガアツク 又三佐官以月令部ニ於テ  
研究ノ結果 対校部部内ニ決行ノ計画ヲ準備シ

要アリト認メ今日 〇〇作我 指差ノ大要ヲ齊令ニシ  
令付ニ対校部部内ニ要令付シテ之ヲ云フ 録取部月令

部ノ意見ヲ詳令航以月令リ且大奉令ニ具申シ  
大奉令及聯合航以月令共ニ意見具申ヲ請ヒ

第五航以月令

兵力増修困難ト認ムル場合ハ長官ノ所信ニテ対校部  
部内改良ヲ宣施スルヤ否ニ決シテ指令ス

ニ対校部部内戦斗ノ概要

(金澤・大出)

(合衆軍) 三月十七日

第五航空艦隊司令官長官宇垣總海軍中將ハ三月十七日一〇〇〇  
麾下航空部隊ニ討シ敵機部隊攻撃ニ関スル作戰指

導ノ大要ヲ發令シテ當時麾下各部隊ハ訓練態勢ニ在リテ  
兵力ハ各地ニ分散セル狀ヲ知リテ多量之兵力ヲ集結シ

作戦配備ニ就カレタ

次ニ所定計畫ニ基キ飛行艇及陸攻ヲ以テ九州方面

本海上空範圍ノ起リ哨戒ヲ實施シテ所屬部隊ハ十七日  
二〇〇以上之敵大部ヲ殲知スルト共ニ之ニ觸接ヲ得候

レ此ノ戦務概ノ報告ヲ綜合スルニ敵大部隊ヲ殲

海

軍

50



勃即<sup>ハ</sup>テ<sup>テ</sup>北西ニ進<sup>ル</sup>行<sup>シ</sup>十<sup>八</sup>日<sup>ハ</sup>勃<sup>ハ</sup>能<sup>ク</sup>九<sup>州</sup>東<sup>方</sup>行<sup>ハ</sup>  
 上<sup>ノ</sup>秋<sup>カ</sup>攻<sup>ム</sup>島<sup>内</sup>ニ進<sup>ス</sup>ル<sup>コト</sup>ヲ<sup>決</sup>定<sup>ス</sup>ル<sup>ト</sup>新<sup>島</sup>ヲ<sup>取</sup>ル<sup>セ</sup>シ<sup>メ</sup>  
 依<sup>テ</sup>第<sup>五</sup>航<sup>空</sup>隊<sup>ハ</sup>勃<sup>ハ</sup>能<sup>ク</sup>十<sup>八</sup>日<sup>ハ</sup>也<sup>ニ</sup>第<sup>一</sup>隊<sup>ハ</sup>  
 法<sup>界</sup>勃<sup>ハ</sup>能<sup>ク</sup>令<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup> 本<sup>命</sup>令<sup>ニ</sup>依<sup>リ</sup>各<sup>部</sup>隊<sup>ハ</sup>豫<sup>メ</sup>定<sup>ス</sup>  
 ラ<sup>ル</sup>テ<sup>ハ</sup>部<sup>署</sup>ニ<sup>依</sup>テ<sup>ハ</sup>行<sup>動</sup>ヲ<sup>開</sup>始<sup>ス</sup>シ<sup>テ</sup>雷<sup>岳</sup>隊<sup>及</sup>銀<sup>河</sup>特<sup>攻</sup>隊<sup>ハ</sup>  
 勃<sup>ハ</sup>能<sup>ク</sup>攻<sup>ム</sup>ヲ<sup>決</sup>行<sup>シ</sup>新<sup>島</sup>隊<sup>ハ</sup>勃<sup>ハ</sup>能<sup>ク</sup>以<sup>後</sup>登<sup>陸</sup>復<sup>撃</sup>能<sup>ク</sup>接<sup>ス</sup>  
 習<sup>志</sup>生<sup>隊</sup>ハ<sup>登</sup>陸<sup>特</sup>攻<sup>々</sup>重<sup>シ</sup>ク<sup>実</sup>施<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>余<sup>ノ</sup>攻<sup>撃</sup>戦<sup>斗</sup>部<sup>隊</sup>  
 隊<sup>亦</sup>全<sup>力</sup>攻<sup>撃</sup>基<sup>ニ</sup>基<sup>テ</sup>東<sup>戦</sup>斗<sup>ヲ</sup>シ<sup>テ</sup>實<sup>施</sup>シ<sup>テ</sup>  
 敵<sup>艦</sup>上<sup>陸</sup>ハ<sup>〇</sup>四<sup>三〇</sup>攻<sup>ヨリ</sup>南<sup>九</sup>州<sup>四</sup>國<sup>方</sup>面<sup>ニ</sup>續<sup>ク</sup>イ<sup>テ</sup>北<sup>九</sup>

海軍

11

州方面ニ未だ我ノ航空基地ヲ攻取ル  
之ガ爲ニ通信施設ノ被害相大ナルガアリ各基地内ノ通信

連絡甚ク不良トナリ作戦上大ナル支障ヲ来ス

斯クテ本朝来ノ我々攻撃隊及偵察隊ノ報告ヲ綜合

スルニ分母ニ度々戦艦ニ度々其他数隻ヲ撃沈破シ大ナル  
戦果ヲ得テタメト判断スルテ銀河特攻隊(爆装)

及神雷部隊ノ昼間特攻々々ヲ命ズル共ニ銀河、彗星  
(雷装)ノ薄暮攻撃ヲ在圏ニ新装ヲ以テサ極其時迄

敵機部隊ハニ能ク接ヲ破像セシメ一撃ヲニ之ガ重滅ヲ

(公簿・古川第)

期シタガ銀河特攻隊 神雷部隊ハ通信連絡ノ不如意  
敵機ノ未装束等ノ多ク準備固ニ合ハズ攻惠ヲ取止メ甚甚甚及

連亦準備ニ好子ヲ要シ夜間以連トナリ  
十八日夕刻新雲ノ飛接中止後敵情一時中断シタガ

夜子電探哨或夜(陸攻及飛行艇)ハ二二〇以後敵部隊  
敵機ヲ捕提シ夜子能接ヲ持込シ夜子以連隊及

十九日黎明時敵機隊ヲ誘導シ敵機初部隊ハ北進シテ  
十九日黎明ニ足摺崎南方六〇度附近ニ連ニ午後

東進シ十九日午前八時南方四〇度乃至一〇度

海

軍

附近ヲ行動シ四國中國北九州ヲ空襲シタ 其ノ兵力ハ  
空母三、三、四隻又ヲ其ニ持トスル四群 ナルコトヲ吾國偵察手ノ

彩雲ニ依リテ視認<sup>確</sup>スルヲ 十九日警備生ニ〇機ヲ以テ吾國  
單独波狀攻撃ヲ實施シ空母一隻也 母艦一隻又ヲ其ニ依リテ

母艦又ヲ其大上セシメテ 十九日夕刻ヨリ天候次第ニ悪化シ  
偵察各部隊ノ状況詳細不明トナリ兵力整備ノ要アルヲ以テ  
第五艦隊ヲ令上ルベシ

攻撃ヲ中止ヲ命令シ 第七艦隊ノ海軍航空隊ノ機ヲ以テ  
特攻隊高ニ〇機程変更整備可能ナルコト判明シ追撃  
強行ノコトヲ命令ヲ改メラレタ

十九日夜雨ハ天候不良ナリ夜間空敵不能ノ為敵情ヲ捕  
捉スルニ不能ナリ又十九日黎明 霧雲ノ重キ敵ニヨリ言  
迄ニ却テ押取方内ニ言提ヲ中下中ノ言母ナリ四一年又コ合  
松部部内ヲ取ル敵情ヲ捕取シテ仍テ翌日星ニコ取ラ

以テ十九日同様ノ言母ヲ取ル敵情ヲ捕取シテ仍テ翌日星ニコ取ラ

中下中ノ言母ナリ四一年又コ合  
松部部内ヲ取ル敵情ヲ捕取シテ仍テ翌日星ニコ取ラ

ノ松部部内ヲ取ル敵情ヲ捕取シテ仍テ翌日星ニコ取ラ

シテ夜子解松部ハ九州東方陣上ヨチ下中ノ敵松部